

talk! talk! talk! ディスクジョッキー、ナレーター・バッキー木場さん



ディスクジョッキー、ナレーター バッキー木場さん

テレビ番組やCMのナレーション、またラジオDJとしても活躍するバッキー木場さん。顔は知らずともその声を聞けば誰でもわかるというほど、これまでに数多くの声の仕事にたずさわってきた。そんなバッキーさんが写真と出会い夢中になったのは小学生の頃。その思いは今も変わらず、カメラを持ち歩いているのは大好きな写真を撮っているという。写真を撮りたくなったきっかけ、そしてバッキーさんにとっての写真の魅力とは？ たっぴりとお話を聞いた。

プロフィール

ばっきー・こぼ。1956年、鹿児島県生まれ。1977年、俳協養成所4期として活動をスタートさせる。CM、番組のナレーションなど幅広く活躍を続ける。主なテレビ番組に「真相報道バンキシャ!」「おしゃれカンケイ」（日本テレビ系）「びったんこカン・カン」「中居正広の家族会議を開こう」（TBS系）「スーパーニュース」（フジテレビ系）など多数。ラジオのDJとしてもおなじみで、bay fmの人気番組「POWER COUNTDOWN JAPAN HOT 30」などを担当している。

Beginning 出会い

カメラ、写真と出会った少年時代 大人になって夢中に

カメラが好きになったきっかけを教えてください。

まず、僕は昭和31年生まれなんですけど、僕が小さい頃はまだ今のようにカメラが身近ではなかったんですね。カメラはお金持ちが趣味人が持っているイメージがありましたし、誰かが買ったというみんなで見に行ってお披露目会が始まるというような感じです。写真を撮られる機会もほとんどなくて、撮るのは特別な日でした。で、僕が小学校高学年くらいのときに、従兄弟が趣味人でカメラを持っていて撮った写真を僕によく見せてくれたんです。それをきっかけに僕も撮りたい、カメラを持ちたいという気持ちが芽生えました。従兄弟の家は裕福でしたが、わが家ではそんな高級品絶対に買ってくれないとわかっていましたから、なおさらカメラに対して憧れを抱いたわけです。

写真に対してよりも、カメラを持っているということがうらやましくなったんですね。

それは大きいですね。でも、写真についても好きになった理由があって、母方の祖父が趣味人でカメラを持っていたそうなんです。母の話ではよく撮ってくれたそうで、僕が産まれる前の母の写真が残っているんですよ。そこには僕の知らない世界が写っていたんです。見たことのない若い母が写っていて、こんな着物を着ていたんだ、家の景色はこうだったんだ、門構えがこうで、こういう木が生えていてっていうのがわかって、タイムマシーンみたいだなと思って興味がわいたんです。今はもうないものが記録として残せるという部分で、写真ってすごいな、素晴らしいな感じなんです。

絶対に買ってもらえないなと思っていたカメラを実際に手にしたのはいつですか？

中学生のときに、母親が買い物するついでに集めてくる得点シールを集めて、120/220判フィルムを使うコンパクトカメラをもらってきてくれたんです。いわゆる押すだけのおもちゃのようなカメラでしたけど、面白くて夢中になって撮っていました。でもだんだんと本を読んだりしてカメラの知識が付いてくると、レンズに望遠が付いているのがいいとか露出がどうとかなくなってきて、本格的なカメラが欲しくなってくる。ただ社会に出てみたら貧乏生活でしたから、実際に手に入れたのはもっと余裕が出てきてから、もうおじさんになってからですね。

カメラが欲しいと思ってから、かなり間が空いてようやくという。

そうですね。だから、そこからは一気にハマりましたね。

撮っていて感じるのは、母親の若い頃の写真がどこか自分の意識の中にあるんですね。僕に子供はいませんが、何年か先この写真を見て、親父こんなに若かったんだとか、こんな建物があったんだとか、自分たちが知らなかった時代や時間を感じてくれたらいいなあという気持ちになるんです。今の時代の記録になればいいなと、不思議とそんな気持ちになるんですよ。

Pleasure 楽しみ

写真を見てイメージが膨らむ＝写真を読む

どんなときに写真を撮っているんですか？

普段からカメラを持ち歩いているので、いいなと思ったときに撮っています。わざわざ撮影に行くことはないですね。というのは、あまり構えて撮りたくないんですよ。スナップ写真が好きなんです。だから三脚も使わないし、できればスピードライトも使いたくないんです。光もそのままの状態、そのままを残したいと思っちゃうんですね。母親の写真もそんなんです。昔のものがそのままの状態に残っている。綺麗なモデルさんが綺麗な衣装を着てライティングをパチッと決めて撮った写真ですって見せられるより、昭和40年の新宿の写真ですって見せられたほうがグッとくる（笑）。

バッキーさんが思う写真の1番の魅力は、やはりそのままの状態を記録して残しておけるという部分なのですね。

ええ、だと思っています。記録として残せるものは映像という形もあるけれど、写真の魅力はその瞬間だけを残しているという部分だと思うんです。瞬間だけだから見たいという気がするんです。たとえば僕はブレってしまった写真って好きなんです。これは何が写っているの？ これはどういう表情だったの？ってわからないから見たくなる。

はっきりわからないことがいい？

わからないというか、想像を膨らませてくれるものですね。小説はただの文字ですが、すごくイメージが膨らんで面白いんですよね。でも映像化されてしまうとがっかりしてしまうことがある。写真も同じで、見ていてイメージが膨らむ



です。モノクロ写真だとさらに面白いです。何色だったのかなって思ったりして。うん、まさに写真は本を読むのと同じです。“写真を読む”ですね。

では、よく撮った写真を見返したりするんですか？

見ますね。パソコンに取り込んで大きな画面で見るのが好きです。写真を好きに並べてスライドショーを作ったりもしています。BGMをつけることもできるんですよ。そのスライドショーを見ていると飽きないんですよ。1時間でも見ていられる。ほんとうに自己満足以外の何ものでもないですね（笑）。

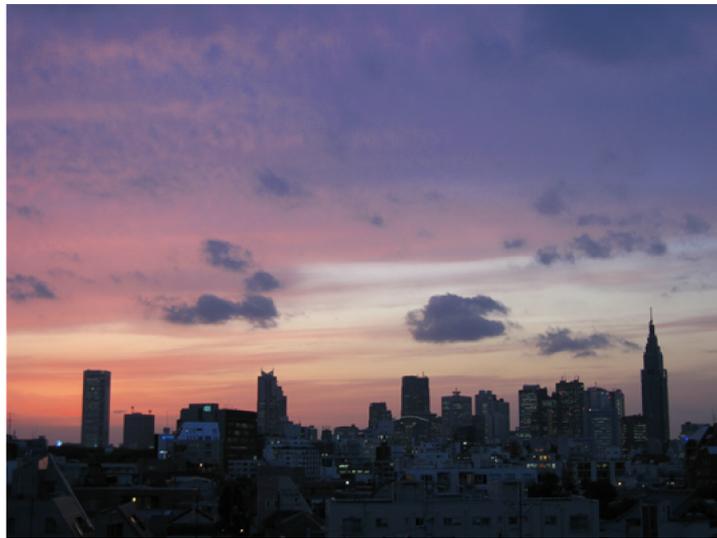
これぞ趣味、という感じですね。

人様が見たってきっと何これって思うでしょうね。でも僕は楽しい。これはあの冬の日に撮ったんだとか、このときの空はどうだったんだとか、写真は自分の中で楽しければいいんです。プロだとそうはいかないんでしょうけど。申し訳ないけれど僕はプロじゃなくて良かったと思います。もちろん技術がないからプロにはなれないですけど、ただ好きで撮れる、下手でもなんでもいいから自分がいいと思う写真が撮れるというのが素人の喜びだと思いますね。

人のことをとやかく言うつもりはないんですけど、長く写真を撮っていると、カメラの性能だとかスペックだとか、技術面ではライティングがどう、絞りがどう、シャッタースピードがどうとか、細かい部分を言いたくなるんですよ、特に男性は（笑）。そうじゃなくて、自分が楽しいもの、いいなと思ったものをどんどん撮って、自己満足で楽しむことが一番いいんじゃないかなと思います。

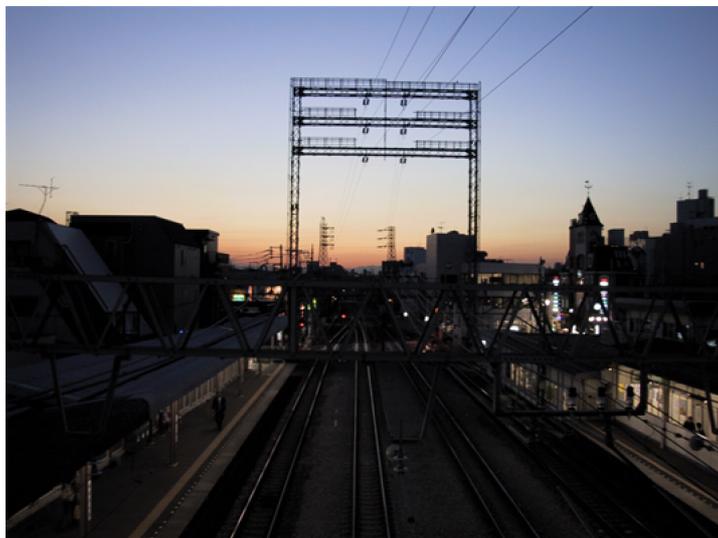
Photo's 作品紹介

夕景、古い建物、ハッキーさんの撮影するノスタルジックな世界



1 新宿夕景

1番多く撮るのは夕日なんです。車移動が多いので車に乗っているときなどは撮れないんですが、時間があって、夕日が綺麗だなというときには高い建物に登ったりして撮ります。この写真は青山のスタジオから新宿方面を撮影したものです。ふと外を見たら真っ赤で、急いでカメラを構えたんです。



2 西へ向かう線路

これも夕景ですね。駅のホームからホームへ渡る場所から撮ったものです。夕景見るとたまらなくなるんですよ。撮らずにはいられない（笑）。夕景って2、3分でどんどん変わっていきますよね。だから今この瞬間しかない、二度と見られない、一生でこの1枚でしかないんだという思いがあるんです。



3 地震雲？

これも夕日が綺麗だなと思ったら、雲が1本伸びていて。最初はこれが地震雲かと思って撮ったんですが、ただの飛行機雲ですね、これ（笑）。



4 午後6時21分

この写真好きなんです。夕方の暗くなる直前、電灯がつき始めるくらいの時間です。シルエットになった歩道橋にどこか寂寥を感じて撮りました。小さい頃、もう少し友だちと遊びたかったけど夕飯の時間もあるし、暗くなると怒られるしなあって思いながら帰った帰り道、そんな懐かしさを感じるんです。



5 夏雲

去年の夏かな？ 天気の良い日。お昼くらいに仕事が終わって「今日はもう終わりだー」って空を見上げたら入道雲がドーンと出ていたんです。これは綺麗だと思って、どうしても雲だけを撮りたかったので、急いで高い建物を探して登って撮りました。



6 丸窓

レストランの中から、オープンテラスの外を撮ったものです。窓の向こうの世界っていう感じにしたかった。ちょうどお姉さんが向こうを向いたところで撮りました。



7 東京名所

この写真が撮れたとき、なんて絵はがきチックなんだ！と思いました。ビルも写っていますけど、どこかレトロな印象を受けるのは少しアンダーだからかな。いや、そもそも東京タワー自体がとてもレトロな建物なんですよ。ね。



8 配水塔

近所の公園にある配水塔だった建物です。公園の隣に野球場があって、ナイターの光が当たっています。これは戦前からある建物らしいです。こういう、昔からあった古い建物も好きで、見つけると撮っています。ここでこんな出来事があったのかとか、こんな人が住んでいたのかなとか、勝手な想像ですがそこでイメージが膨らみます。

Future これから

写真とは“一瞬の永遠” 一瞬を写しながら永遠を感じるもの

今後撮ってみたいものはありますか？

本当は人物を撮ってみたいんですよ。街にいる人たちを。でも最近は写真を撮らせてもらうことは不可能なんですよ。この前も近所の塀の上で子供がゲームをしていていいなと思ったんです。勝手に撮ると問題があるけれど、かといって声を掛けると子供は意識した表情になっちゃうなと思いながら声を掛けてみたんです。その途端グッと顔つきが変わって、こちらを警戒しているんですよ。僕がこういう風貌だっていうのもありますが、でもこういうご時世ですから気をつけるように親や学校に言われているでしょうね。その場でごめんって謝ってすぐに離れましたけど、ちょっと寂しいなと思いましたね。

知らない人と話しちゃダメだとか、そんなことを言われているかもしれませんね。

だから親戚兄妹や友人を撮ったり、親もだんだん歳を取ってきていますから、親はできるだけ撮り続けたいという気持ちはあります。でもどうしてもカメラを向けると構えてしまうんですよ。父親は照れて固まってしまうし、母親は逆に照れて「イエーイ」ってリアクションを取る（笑）。そうじゃなくて、何か料理をしているところだとか、普段の生活をそっと撮ってみたいんですけどね。

人物写真を撮りたいと思うのはなぜですか？



人物と一緒に、その人が生きている生活や空間を撮りたいんです。たとえば母親の表情やしわ、洋服、髪型もそうですが、後ろに写っている障子が破れているとか、こんな家具を使っているだとか。

昔の写真はパソコンに取り込んで修正することがあるんですよ。この間も母親の兄妹が子供の頃に縁側に座っている写真を修正したんですが、座っている横に白いものがあったらパソコンで拡大してみたらコップが写っていたんですよ。こういうので飲んでたんだなあ妄想にふけてしまいました（笑）。さっき言った“写真を読む”ということだと思うんですが、そういうことができる写真が撮りたいですね。

なるほど。しかし面白いですね。パソコンで古い写真の修正をされているんですね。

ええ、深夜に1人でパソコンに向かってやっています。なんだかね、ちまちまとした細かい作業が好きなんです（笑）。その写真は白く折目が付いてしまっていたんですが、それを地道に消してから黄ばみを取って、コントラストを調整したりして。古い写真はそれ1枚しかないですから、データにすれば残せるし焼き増しもできるし、いいですよ。

パソコンを使っているいな楽しみ方をされているのですね。では最後の質問です。バッキーさんにとって写真とはなんですか？

お、最後にその質問が来ましたか（笑）。写真とは何か、難しいですね。うーん、見えているところから見えないところを見せてくれる……見えない部分が想像できるというか、写っていない部分を見せてくれるもの。写真とは空間？いや、違いますね……。 (しばらく悩んで) すみません、深みにハマってしまいました。でも、写真から時間や空間を感じるんです。だから格好つけた言い方になってしまうんですが、“一瞬の永遠”なんていかがでしょうか（笑）。一瞬を写すけれど永遠を感じるものということ。

素敵な言葉を考えていただきありがとうございます。そのまま見出しに使わせていただきたいです（笑）。

よろしく願います（笑）。これからも写真は自己満足で楽しみたいと思います。

[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.